

伊勢市教育研究所

たより



E-mail: 教育研究所

kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

教育支援センターNEST

kyo-nest@city.ise.mie.jp

平成26年6月30日発行

伊勢市教育研究所

伊勢市小俣町元町540番地

教育講演会【和歌山大学教育学部 豊田充崇先生を迎えて】

「子どもたちのSNS利用実態

明日からできる情報モラル教育」

6月3日(火)に、子どもたちのSNS利用実態と情報モラル教育について学ぶ機会を設



けました。お招きしたのは、和歌山大学教育学部准教授 豊田充崇さんです。

「子どもたちのネット利用の実態」「情報モラル教育で大切にしたいこと」「情報モラル教育に有効な教材」という内容を中心に、自作教材(プレゼン)を使って、事例を交えながら、わかりやすい話をしていただきました。研修の主な内容を紹介します。

LINEを使った学習事例

子どもたちの間で起こりうる問題を取り上げていました。3人の女の子がLINEで会話をします。一人の子どもが送ったLINEに対して、後の二人が、そのとき寝ていたり、家の仕事をしていたりして、LINEに気づかず、すぐに返事を返せなかったため、送った子どもが腹を立て、3人の関係が悪くなってしまうという設定です。

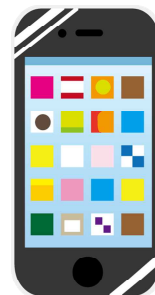
これは、子どもたちへの問題提起として実際に学校現場で使われ、子どもたちに意見交流をさせるそうです。LINE以前に人との付き合い方をも考えさせる学習にもなります。子どもたちは自分の経験を重ね合わせて、LINEの使い方や、相手を思いやることを学んでいけます。



子どもたちのネット利用の実態

①中学3年生では、70%以上のネット利用率

2013年の夏以降に和歌山市内の中学生を対象にしたネット利用状況の調査では、中学3年生の7割以上がLINEを利用していることがわかってきています。これは、伊勢市でも同じような状況であることが予想されます。



②スマートフォンの普及とネットトラブル

スマートフォンの普及とともに、益々進展する中学生のネット利用に対して、中学校での情報モラル教育は依然として厳しい状況にあります。ほとんど打つ手がなく、校内で生じたネットトラブルをひとつひとつ対症療法的に生徒指導の一環として扱うしかないのが現状です。

③LINEの危険性

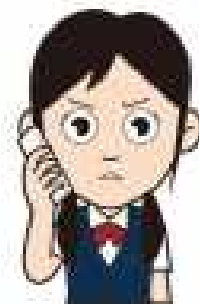
無料音声通話ができることが、子どもたちにとっては最大の魅力で、LINE人口が増えています。すぐ返す、返さないということで関係が悪くなったり、仲間はずし等の問題が、増えています。

「情報モラル教育」で大切にしたいこと

情報モラル教育を何のためにするのか、また、指導の上で大切にしたいことについて、特に以下の7項目をあげられました。

①各種ネットトラブルの事前周知と未然防止

子どもたちがネットを使うまでに、正しい使い方を教えることと、トラブルの事例、それを引き起こさないために気をつけることは必ず教えていく。



②社会的常識の理解（ネットの「常識」は自然に身につかない）

ネット以前に、社会の常識を身につけていることが大切。良い、悪いを判断できること、相手を思いやる心など、人として大切なことを小さいうちから身に付けておくこと。

③ネットの特性を知り科学的な理解を深める（デジタル化された情報の流出の恐ろしさ）

ネットとはどういうものか、使い方を間違るとどうということになるのか、その特性を事例を基に学習し、情報流出の恐ろしさについて理解を深めていく。

④ネット利用の「依存症」の自覚を促す

ネットの依存症は自覚がないので、情報モラル教育によってネット依存症の自覚を持たせることが大切である。この項目は、情報モラル教育の特に重要なポイントである。

⑤学校や担任が、児童生徒の「相談できる相手」と認識させる必要性

アンケート調査によると、ネットトラブルの相談相手として教員が頼られる割合は低い。学校はケータイの禁止や制限をしている側の立場にあるからである。しかし、情報

モラル教育を徹底させ、ケータイの禁止や制限をしていますが、いざトラブルになったときは、教員は生徒の味方であるというスタンスや、やはり教員の指導力や対応力は頼りになるということを示す必要がある。

⑥正しく適切に利用している子どもの状況を把握し、ほめる場の設定（いざという時に味方につける）

不適切なネット利用者はよく目立つが、大部分の子どもは、大人以上にネットの特性を理解して適切な利用を行っている面もある。そういった生徒をほめる場として情報モラル授業を設定することで、いざ校内でのトラブルが生じた際には、教師サイドに情報提供をしてくれたり、現状を聞き取れる対象者となり得たりする可能性も大きい。



⑦ネット利用状況を共通理解する

情報モラル教育を通して教師集団が子どもたちのネット利用状況を把握し共通理解を図る。このことは、ネットトラブルの早期発見・早期対応にも役立つ。

情報モラル教育と学力向上

情報モラル教育は、学力向上の重要な要？

平成20年度の和歌山県教育センターの調査では、「メール送信数が多いほど学力が低い」という結果が出ています。この結果からは、ネット利用の依存度が高いから学力に悪影響を与えているという見方が一般的かも知れませんが、一方で、学習に意義を見出していない生徒らの層が、ネット依存に陥りやすい傾向にあるというふうにもとらえることができます。ケータイ利用の結果学力が低下したのか、学力が低い生徒たちのケータイ利用頻度が高いのかは定かではありません。しかし、メール送信数の多い生徒が、少ない生徒よりも平均点が低いことは明らかです。



この調査の中で、ケータイを持っている生徒と持っていない生徒では、明らかに持っていない生徒のほうが成績がよいが、ケータイを持っていてもほどほどに使っている生徒と、もっていない生徒とでは差は認められませんでした。ケータイを持っていても、ほどほどに使っていれば問題はないことがわかります。逆にまったく使わないよりは、使う時間を決めて、節度を持って使っている生徒のほうが、自分をコントロールする力がつくということも考えられます。

そこで、情報モラル教育では、生徒自身が自分のネット利用の仕方を見つめ、度が過ぎている生徒には「ネット依存症の自覚」をさせることが重要なポイントになります。

情報モラル教育が、学力向上のために、いかに重要であるかがわかります。

アンケートより (一部抜粋)

1. 参加者

小学校26名 中学校 11名 計37名



2. 講座の内容は理解できましたか。

十分理解できた	18名	49%
ほぼ理解できた	16名	43%
あまり理解できなかった	3名	8%

3. 今回の研修で学んだことを自らの実践に活用できますか。

できる	14名	38%
どちらかというところ	23名	62%

4. 3の活用できる内容

- ・教材研究 ・指導の流れ ・専門的知識 ・話し合いの工夫 ・指導計画
- ・話し合いの工夫 ・発問、板書の工夫 ・指導形態の工夫 ・学習評価
- ・情報モラルの授業 ・学習意欲の高め

5. あなたが喫緊に対応すべきと考える教育課題は何ですか。

- ・保護者や地域とともに、情報モラルを学ぶこと
- ・仲間づくり（情報モラルに関わって）
- ・授業の中でデジタル教科書の効果的な使い方
- ・情報モラル教育の日常的実践
- ・情報被害からの身の守り方
- ・インターネットに関わる薬物の危険性
- ・子どもを規制するだけでなく、情報モラル教育を行うこと
- ・インターネットによるいじめを減らすこと
- ・SNSなどの被害事例等を知ること